

ICT街づくり推進会議（第6回）議事要旨

1. 日時

平成26年4月22日（火）10:00～11:30

2. 場所

総務省7階 総務省省議室

3. 出席者

（1）構成員

岡座長、石原構成員、清原構成員、須藤構成員、徳田構成員、村上構成員

（2）政府CIO

遠藤政府CIO

（3）平成25年度地域実証プロジェクトにおける関係者

東京都三鷹市：清原市長

千葉県柏市：奥山企画部参事

長野県塩尻市：金子情報推進課専門幹・最高技術責任者

静岡県袋井市：鈴木企画財政部長兼理事

愛知県豊田市：森川名古屋大学大学院教授

（4）オブザーバ

内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室、農林水産省大臣官房統計部管理課情報室、経済産業省商務情報政策局情報経済課、国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課、同省都市局都市政策課

（5）総務省

上川総務副大臣、阪本情報通信国際戦略局長、吉田政策統括官、武井大臣官房総括審議官、鈴木大臣官房総括審議官、関情報通信国際戦略局次長、渡辺大臣官房審議官、吉田情報通信国際戦略局参事官、小笠原情報通信政策課長、中村融合戦略企画官

4. 議事

（1）地域懇談会の実施結果について

（2）ICT街づくりの地域実証プロジェクトの取組状況について

（3）各ワーキンググループ（WG）におけるこれまでの検討結果について

① 普及展開WGにおけるこれまでの検討結果

② 共通ID利活用WGにおけるこれまでの検討結果

（4）フリーディスカッション

5. 議事概要

会議の中で、上川総務副大臣より挨拶があった。主な内容は以下のとおり。

【上川総務副大臣】

- アベノミクスに対する国民の皆様からの期待は大きく、成長の実感が全国の津々浦々に染み渡り、地域の中から元気を出して頂くためにも、ICTを活用した街づくりには大きな期待が寄せられている。
- 4月9日（水）に、愛媛県松山市で開催した地域懇談会に出席させて頂いた。現地の皆様の声を直接伺うのと、紙媒体の資料を拝見するのでは見えるものが全く違ってくことに驚いた。
- それぞれの地域の取組が持続・発展してくこと、また、良いモデルを横展開できるようにすることがこれからの大きな課題と認識しており、構成員の皆様には、引き続き忌憚のない御意見を頂戴できれば幸い。

（1）地域懇談会の実施結果について

事務局より資料6-1について説明が行われた。

（2）ICT街づくりの地域実証プロジェクトの取組状況について

地域実証プロジェクト関係者より資料6-2について説明が行われた。

（3）各ワーキンググループ（WG）におけるこれまでの検討結果について

① 普及展開WGにおけるこれまでの検討結果

徳田構成員より資料6-3について説明が行われた。

② 共通ID利活用WGにおけるこれまでの検討結果

須藤構成員より資料6-4について説明が行われた。

（4）フリーディスカッション

出席者の主な発言は以下の通り。

【石原構成員】

- 一般的に、こういった取組においては「抽象化」や「モジュール化」が上手くできないことが多い。そのような中、今回の報告では、街の特性やICTツール、アプリケーション分野の3つの軸で類型化を行っており、非常に良いと思う。
- 各都市の取組をモジュールの組み合わせとして整理したことにより、効率的かつローコストな街づくりが促進されることになると期待している。
- 海外展開を容易にするために、共通プラットフォームの開発段階から、グローバル規

格を意識したものとすべき。また、普及展開を最初からグローバルな視点で行うことも必要。最初から国際仕様を想定した共通プラットフォームにすることをお願いしたい。

【清原構成員】

- ICT街づくりのプラットフォームに関して、システムのレイヤー構造化等の「技術的な環境整備」のみならず、「普及展開を支援するための体制整備」や「街づくり推進のための仕組み」まで言及し、持続可能性を念頭においた形で整理した点は極めて重要。
- 地域の様々な社会資源が諸課題を解決する上で重要であるという認識を持ちつつ、ICT街づくりプラットフォームにより低コスト・低リスクに普及展開を進められるという成功事例をアクションプランに盛り込んで頂けると幸い。また、各事例について利用者目線での検証を行い、「なぜ上手くいかなかったのか」ということについても突き詰めていくことも重要。
- 個人番号カードの有効活用のためには、住民に利便性を感じてもらい、カードの交付については、それを役所まで取りに来てもらうことが必須。その際、サービスの拡充に向けた条例改正をはじめとする自治体の努力もさることながら、自治体に先んじて民間企業にカードを活用したサービスを展開して頂き、個人情報保護とセキュリティに留意しつつ、公的個人認証を活用したサービスのユースケースをつくって頂けると幸い。この点については、産業界の代表たる岡座長にも是非ご尽力をお願いしたい。
- 共通IDの利活用方策については、これから1～2ヶ月の議論が、民間企業や自治体にとって非常に重要なインセンティブを付与するものになると思う。引き続きご尽力をお願いしたい。

【須藤構成員】

- 地域実証プロジェクトの取組状況について、特に静岡県袋井市のプロジェクトでは、遠藤CIOの下で検討されている「データ構造化」について、既の実証的に取組が行われており、非常に心強く感じる。また、「モジュール化」に関する取組も進んできており、想像よりもはるかにレベルの高いところまで進捗しているという印象。
- 今後、さらなる共通化についての検討は必要であり、APIを含めた共通基盤の権利関係の整理・検討を進めていくべき。

【徳田構成員】

- 従来までの総務省の施策とは違い、本会議の構成員らが積極的に現場に出向き、地域実証プロジェクトの後押しを行っている点は非常に良い。今後は、各地域の街づくりモデルを持続可能なビジネスモデル・エコモデルに繋げていくことが重要。

- 4月15日（火）に日本で欧州とのプロジェクトベースでの意見交換を実施した。欧州の取組である「F I -WAREプロジェクト」では、各地域で得られた成果のA P Iをクラウド上で一元的に管理・公開し、第三者による二次利用を可能としており、実際の二次利用に当たっては、欧州委員会が財政支援を行うスキームがあるという点特徴的だった。
- 共通 I Dの民間利用に対するハードルを下げるために、平易なインタフェースや、安心・安全に使える枠組みに関する議論を引き続き進めていくことが必要。

【村上構成員】

- I C T街づくりの取組が始まった時は、I C Tが主役で、「I C Tがどのように街づくりに貢献できるか」という切り口だったが、現在では、街づくりが主役で、「街づくりの中でどのようにI C Tを活用していくか」という切り口に変わりつつあるのを感じる。
- 徳島県や愛媛県松山市における地域懇談会に参加したが、実際に現地に行って話を伺ってみると、「街づくりが主役」ということを一層強く感じた。しかし、こういった会議の場では「I C Tが主役」という内容になりがちなので、できる限り現地の利用実態やユーザーの顔が見えるような形で成果をまとめることで普及展開に寄与できるのではないか。
- 普及展開を図る上で、コストや成果を定量的に示しつつ、得られた成果から逆引きできるようなガイドブックやベストプラクティス集をまとめることができると取組の価値を更に高めることができるのではないか。

【遠藤政府C I O】

- 今まで様々な実証プロジェクトが行われてきたが、ほとんど続いた試しがない。しかし、本会議では、何とか今までの取組を持続可能な形にしようと検討が行われており、非常に心強く感じる。
- ただし、プロジェクトの効果がほとんど書かれていない点が気になった。「こういうことができるようになった」ということは書いてあるが、それが経済的にどの程度の効果に繋がったのか、という記載がない。どういう効果が出たのかを分かりやすく示すことで追隨する他地域を惹きつけ、普及展開に繋げていくことができるので、是非ともプロジェクトの効果について追記頂きたい。
- I C T街づくりに関する予算は、平成25年度補正予算はあるが、平成26年度当初予算はないと伺っている。この取組はもう少し続けた方が良いと思う。

【岡座長】

- 遠藤ＣＩＯからご指摘のあった効果については、地域懇談会で現地の方とやり取りさせて頂いた中では様々なお話を伺っており、最後にまとめる時に追記して頂きたい。
- ＩＣＴ街づくりの完成度を高めるためには、「首長の強いリーダーシップ」、「首長をサポートすることに対する関係者の皆さんの情熱」、「市民の参画意識」がポイントであり、取組に持続性をもたせることが重要。
- 成果の横展開に向けて、ＩＣＴ街づくりのプラットフォームや共通ＩＤに加えて、アプリケーションやサービスについても類型化したり、或いはサービスを組み合わせたモデルを作ったりするとともに、総務省や本会議が横展開の旗振り役を担うことが必要。

【上川総務副大臣】

- 成果の横展開に関するマイルストーンの具体化に向けて、引き続き岡座長の下で御指導を頂きたい。
- また、横展開もさることながら、１つのモデルについて参加住民の規模に関する目標を設定し、市の中で普及を図っていくことも重要であり、そのための施策についても検討を進めて頂きたい。

以 上